

近現代史(5) 「フランス革命②～ナポレオン時代～」

○今回のポイント

☆フランス革命の流れ

ナポレオンの活躍

三部会 ⇒ 国民議会 ⇒ 立法議会 ⇒ 国民公会 ⇒ 総裁政府 ⇒ 統領政府 ⇒ 第一帝政

【①】

○1795.10 総裁政府成立 ←【②】に基づく

☆インフレによる生活の圧迫を背景にしたジャコバン派の復活

☆社会的・政治的不安に乗じた王党派・右翼の台頭

政治的不安定
民衆は政治の安定と革命の成果の保障を求め、強力な指導者を望む。

○1796.5 【③】の陰謀…私有財産廃止・総裁政府打倒

○1796~97 ナポレオン【④】勝利⇒カンポ=フォルミの和約で第1回対仏大同盟が崩壊

○1798~99 ナポレオンの【⑤】

- ↳ エジプト占領には成功。【⑥】がロゼッタストーンでヒエログリフ解読！
- ↳ アブキール湾の戦いで全滅。フランス軍は取り残され、イギリスは第二回対仏大同盟を結成！
- ↳ ナポレオンは軍をエジプトにおいてフランスに帰る。

○1799【⑦】⇒ナポレオンが総裁政府を打倒！ ⇒ 統領政府

【⑧】 第一統領ナポレオン

○内政

- ・1800【⑨】…財政の整理と統一のために設立。税制改革とともに経済が安定した。
 - ・1804【⑩】…私有財産の不可侵など近代市民社会の法原理。他の民法の模範となった。
- ※ジャコバン独裁期に無償で土地を得た自作農(ナポレオンの戦力)の支持を得るため。

○外政

・戦争

- ・1800~1802【⑪】(アルプス越え)⇒オーストリア撃破
- ・1802 ピット倒閣後、英と【⑫】。第二回対仏大同盟解消
⇒この成功を背景に、国民投票の結果、終身統領となる。

・外交

- ・1801 宗教協約【⑬】…教皇と和解しカトリックの復活
- ・1803【⑭】をアメリカ(ジェファソン政権)に売却

※フランス人権宣言の影響により、カリブ海の砂糖生産地ハイティで黒人奴隷【⑮】が反乱。ハイティへの食糧供給地=西ルイジアナが不要となる。

⇒1804 ハイティ独立



【16】 1804 ナポレオン 国民投票で皇帝に即位

○第3回対仏大同盟との戦い

<ul style="list-style-type: none"> ・1805.10[17] ・ナポレオンがイギリス侵攻をはかるが、ネルソン率いるイギリス艦隊に撃破された戦い。ナポレオンは対英上陸作戦を断念し、大陸制覇に方針を変えた。
<ul style="list-style-type: none"> ・1805.12[18] ・フランス皇帝ナポレオンが、ロシア皇帝アレクサンドル1世と神聖ローマ皇帝フランツ2世を撃破した戦い。この結果、第3回対仏大同盟は瓦解した。

○プロイセン、オーストリア、ロシアとの戦い

1806.3	[19]	→	1806.8	神聖ローマ帝国の消滅
	・プロイセン、オーストリアに対抗するためのナポレオンを盟主とする西南ドイツ諸邦の同盟。			
1806.10	[20] (プロイセン撃破)	→	1806.11	ベルリン勅令[21] ・英への経済的打撃をねらう [22] ⇒大陸諸国の経済活動に大きな打撃。反ナポレオン運動を引き起こす原因。
1807.2	アイラウの戦い(ロシア撃破)	→	1807.7	[23] ○プロイセン ・ポーランド復活 ⇒[24] ・領土の大半の割譲と莫大な賠償金 ○ロシア ・大陸封鎖の協力

※反ナポレオン運動による諸外国のナショナリズムが昂揚

- ・プロイセン改革…[25]、[26]が農奴制の廃止、徴兵制、教育制度改革を行う。フィヒテ「ドイツ国民に告ぐ」でドイツの民族的自立と文化の再建
- ・[27](半島戦争)…反ナポレオンのスペイン民衆の対抗運動。ゲリラ戦を展開。

○ナポレオンの没落

<ul style="list-style-type: none"> ・1812[28]…大陸封鎖に違反してイギリスへの穀物輸出を再開したロシアに制裁を加えるために行われた大遠征。モスクワを占領したもののロシアの焦土戦術の前に退却を余儀なくされ、退却時に露軍の追撃を受けて大敗した。 ・1813 諸国民戦争([29])…ナポレオンが普・墺・露に敗北。退位してエルバ島に流される。

○百日天下

<ul style="list-style-type: none"> ・フランス、[30] (ブルボン朝ルイ18世) ⇒ ウィーン会議「会議は踊る、されど進まず」 ↓ ・ナポレオンがエルバ島を脱出してパリで皇帝に復位 ↓ ・[31]でイギリスのウェリントン将軍に敗北⇒[32]で没
